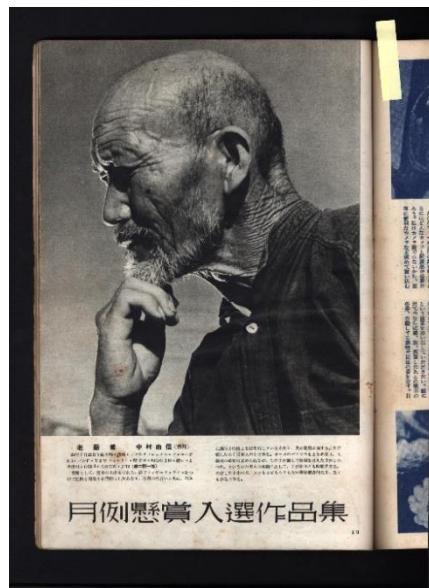


2026 年 9 月 19 日(土)～11 月 29 日(日)

下道基行 瀬戸内「直島時代の中村由信」資料館 公開のお知らせ



中村由信撮影のフィルムを現像したコンタクトシート



『アサヒカメラ』1950 年 2 月号に掲載された中村由信による写真

公益財団法人 福武財団（香川県・直島 理事長：福武英明）が運営する宮浦ギャラリー六区では、2026 年 9 月 19 日(土)から瀬戸内「直島時代の中村由信」資料館を公開します。2019 年 9 月から始まった アーティスト・下道基行による瀬戸内「」資料館は、これまでに 7 回の調査企画展を公開してきました。第 8 回となる新たな企画展では、館長の下道が継続的に調査を続けてきた直島出身の写真家・中村由信（1925-1990）に焦点をあてた展示を行います。

瀬戸内「直島時代の中村由信」資料館について

瀬戸内「」資料館では、2019 年に中村由信の師匠である緑川洋一についての調査と展示（瀬戸内「緑川洋一」資料館）を行い、その後 2022 年に瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館を公開しました。以降、館長の下道は中村についての調査を続け、第 8 回調査企画展となる今回、中村に再び焦点を当てた展示を行います。下道が調査を続ける中で、2026 年 2 月に直島にある中村の実家の蔵から、中村が上京して写真家になる以前の 1950 年代に撮影された写真のネガや、同時期に投稿・掲載された写真雑誌など、貴重な資料の数々が発見されました。これらの資料には当時の直島の風景や人々の姿が残されています。

本企画では、資料の現物展示に加えて、写真雑誌の抜粋やフィルムを現像したコンタクトシートなど資料の中身もご覧いただけるような構成で展示します。また、戦後から中村が上京する 1955 年頃までの写真史にも触れ、中村独自の表現スタイルの誕生とその時代背景について深く掘り下げます。



中村由信の実家の蔵から発見された資料

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。
公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション
メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）

中村由信について

1925年に直島で生まれた中村由信は、20代の頃に現在の三菱マテリアル直島製錬所で勤めながら、直島を中心とした瀬戸内の島々の風景や暮らしの撮影を始めました。岡山県出身の写真家・緑川洋一に師事し、1950年頃には勤務先の仲間と共に写真を撮影する「直島どんぐりクラブ」を結成し、約5年間活動しました。その後上京し、瀬戸内海を題材とした写真集等を出版し、プロの写真家として活躍。代表作である「瀬戸うちの人びと」(社会思想社, 1965.10)では鯛網の網元、産婆さん、郵便屋さん、世話焼き婆さん、医師など瀬戸内をめぐる人々の生業や暮らしが生き生きとおさめられています。

インフォメーション

会期：2026年9月19日(土)～2026年11月29日(日)

開館日：土曜日、日曜日、祝日

開館時間：13:00～17:00(最終入館 16:30)

会場：宮浦ギャラリー六区／瀬戸内「 」資料館 (〒761-3110 香川県香川郡直島町 2310-77)

鑑賞料金：520円 (15歳以下は無料)

アーティスト：下道基行

キュレトリアル・アドバイザー：三木あき子

主催：公益財団法人 福武財団

瀬戸内「 」資料館について

アーティスト・下道基行による瀬戸内「 」資料館は、2019年9月から始動しました。瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて、そこに住む人々、関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交え、調査、収集、展示し、語り合う場として構想しました。「 」の中には毎回の展示のテーマが表記されます。一連の営みは記録として保存し、次への展開に活用していきます。2020年には、東京都現代美術館で開催された「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展」にて下道基行の近年の代表作として展示されました。

過去の調査企画展

第1回 瀬戸内「緑川洋一」資料館 (2019年9月28日～11月4日)

第2回 瀬戸内「百年観光」資料館 (2020年7月4日～8月29日)

第3回 瀬戸内「鍛造景」資料館 (2021年8月14日～9月26日／2022年4月14日～5月18日)

第4回 瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館 (2022年8月5日～9月4日／9月29日～11月6日)

第5回 瀬戸内「直島部活史」資料館 (2023年9月9日～12月23日／2024年3月2日～7月27日)

第6回 瀬戸内「漂泊家族」写真館 (2024年8月9日～10月14日／2025年4月18日～5月25日／8月1日～8月31日)

第7回 瀬戸内「文化老人類学」資料館 (2025年10月3日～11月9日／2026年3月7日～8月29日)

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550 (平日：8:45～17:30)

宮浦ギャラリー六区

2013 年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が行き交っていた娯楽の場「パチンコ 999（スリーナイン）」を、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場として開館しました。2019 年 9 月からは下道基行 による瀬戸内「」資料館を展開しています。



宮浦ギャラリー六区 写真：山本紉

アーティストプロフィール

下道基行（したみち もとゆき）

1978 年岡山生まれ。2001 年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」（2006-2010）、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」（2006-）など、展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。

フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真や映像、収集などの手法によって編集することで視覚化する。2019 年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外さまざまな展覧会に参加。さらに、作家として作品をつくることと並行して、「Re-Fort Project」（2004-）、「新しい骨董」（2014-）、「旅するリサーチラボラトリー」（2015-）など、様々な人々とのグループ／コレクティブでのプロジェクト活動も多数行っている。2019 年より瀬戸内「」資料館を企画し、「館長」に就任。

■ベネッセアートサイト直島とは

「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を舞台に株式会社ベネッセコーポレーションと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと——各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々と触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセグループの企業哲学である「ベネッセよく生きる」とは何かについて考えてくださることを目指しています。

そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

■ベネッセアートサイト直島の歴史について

参照 URL：<https://benesse-artsite.jp/about/history.html>

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）